

ひとひと  
**女・男**  
**ひろば**  
 <第23回>



**自分の生き方を選べる社会に**

小林 奈美さん（山谷町2・学生）

インテリアや建築の仕事に興味があって、資格を取るための勉強を現在しています。「ゆくゆくは自宅で仕事をできる資格と経験を身につけて、結婚や出産をしても働き続ける」のが目標です。なぜなら、いつも家で迎えてくれる母にも、アルバイト先で生き生きと働いている女性にも、どちらにも魅力を感じるからです。

将来に対して、自分が「こうしたい」という強い気持ちを持つことも大切ですが、その時に性別にかかわらず、本人の意思で生き方を選ぶチャンスのある社会であってほしいと思います。

一月十六日、外食事業を展開する(株)大庄による食品分野の民間研究施設「大庄総合科学新潟研究所」の竣工式が行われました。

新潟薬科大学新津キャンパスに隣接する場所に建てられた同研究所では、大学より二人の教授を迎えて、食品の「安全、安心、自然」をキーワードに共同で研究が進められるとのことで、産学官連携によるバイオリサーチパーク構想が、大学の開学に続き、また一歩前進します。



**立ち上り！バイオリサーチパーク**

**地域交流講座**

**「21世紀を創るバイオの世界」**

「食品包装のお話し消費者とメーカーから見た包装の役割」(その2)

講師 食品製造・食品工学研究室教授 服部良男さん

最近の消費者にとって最もも関心が高いのは、商品の安心と安全に関する情報です。これが包装におけるメーカーからの情報の発信と責任の明示ということになります。

現在の包装では、商品名やセールのポイントといった販売促進のための情報のほかに、製造年月日や賞味期限、原材料、産地名、添加物・アレルギー物質の有無、栄養成分表示、使用上の注意などのさまざまな情報が表示されています。これらの表示は、担当の省庁や関係する法律によって定められています

具体的には、卵やミルクなど重いアレルギーが起った品目の表示が義務付けられました。食品添加物では、全体で約八百種類が指定・認可されています。添加物は食品の腐敗や変質を防ぎ、食中毒を減少させる効果や、

表示については、卵やミルクなど重いアレルギーが起った品目の表示が義務付けられました。食品添加物では、全体で約八百種類が指定・認可されています。添加物は食品の腐敗や変質を防ぎ、食中毒を減少させる効果や、



アミノ酸となる仕組みは同じですが、分解が遅くて分子量の大きいものが残るとアレルギーの可能性があると心配する人もいます。私自身は遺伝子組換え食品の安全性について心配はしていませんが、不安を感じる人は、食品添加物と同様に十分な情報公開によって購入の選択をするということになります。

平成十五年度に、内閣府に食品安全委員会という組織ができ、食品行政の一本化が図られることになりました。欧米に比べると遅い対応ですが、これまでもより良い方向に向かうことと思えます。

JAS法：農林物資の規格化および品質表示の適正化に関する法律

\*今回は、倉田忠男教授の「ビタミンCと健康」です。

身近な自然 豊かなカルチャー

**花と遺跡のふるさと公園**

新津市美術館

☎0250-25-1301  
<http://www.city.niitsu.niigata.jp/>

新潟県埋蔵文化財センター

☎0250-23-1142  
<http://www1.ocn.ne.jp/~n-maibun/>

新潟県立植物園

☎0250-24-6465  
<http://botanical.greenerly-niigata.or.jp/>